

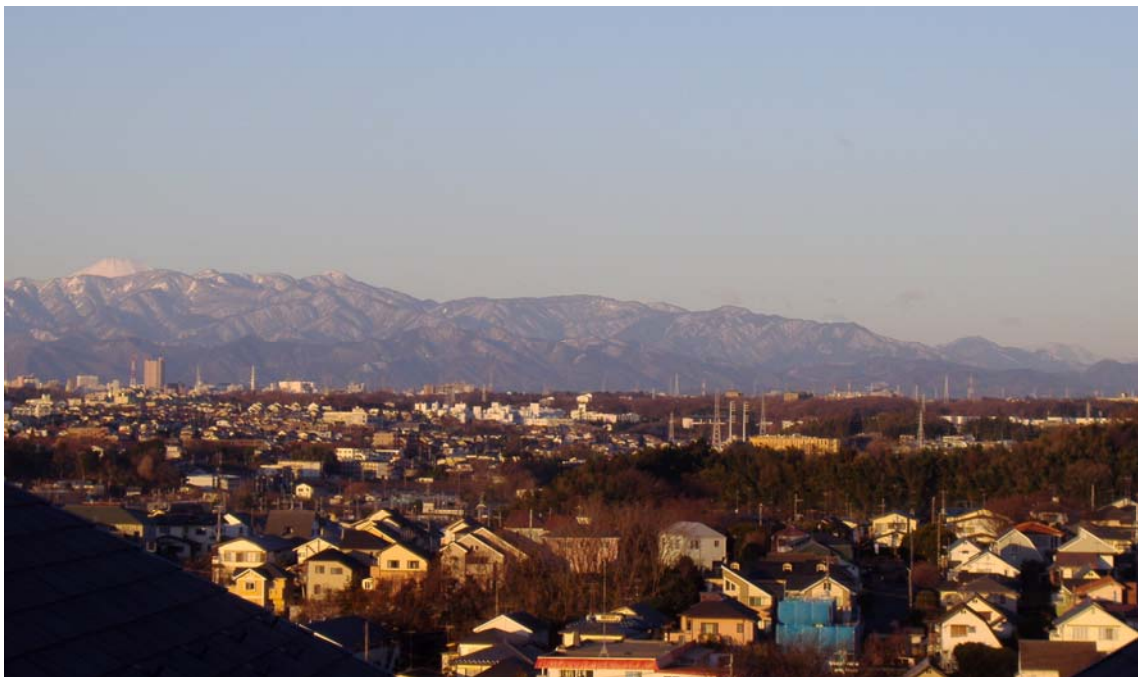
文部科学省 「学びあい、支えあい」地域活性化推進事業

平成19年度

青葉まちのマイスター講座(入門編)

～青葉区を見る・知る・味わう～

報告書



あおば学校支援ネットワーク

青葉まちのマイスター講座(入門編)

～青葉区を見る・知る・味わう～

目 次

1. 青葉まちのマイスター講座開講にあたって	2
2. 第1回 「私の青葉区の地図を作ろう」	3
3. 第2回 「青葉を歩こう」	5
4. 第3回 「田園都市青葉の環境と自然を考えよう」	13
5. 第4回 「自分を守る力を身につけよう」	16
6. 第5回 「青葉区の地産物を味わおう」	18
7. 第6回 「青葉区を紹介しよう」	19
8. 第7回 「青葉の芸術活動を体験しよう」	20

青葉まちのマイスター講座開講にあたって

あおば学校支援ネットワークは、主に青葉区内の小学校と地域のボランティアを結び、様々な教育支援をボランティアの方々とともにを行っています。そのような活動の中で折に触れて、住民の地域社会におけるつながりが弱いことや、世代間の交流の少なさを感じてきました。一方で、地域社会とのつながりを持ちたいが、きっかけがつかめないでいる人も潜在していることが分かってきました。

今、地域社会では、地域の教育力を掘り起こすことが課題になっています。そこで、私たちは、地域の大人同士がコミュニケーションを深め、地域社会に関わるきっかけを持ち、地域教育力の向上につながる事業を考えました。それが、文部科学省の「学びあい、支えあい」地域活性化推進事業を受託して開講した「青葉まちのマイスター講座(入門編)」です。文科省では、当事業を「社会の急激な変化に伴う住民同士の連帯感の欠如や人間関係の希薄化等による地域教育力の低下に対応するため、住民がボランティア活動や家族参加の体験活動、地域の様々な課題に取り組みながら解決する活動などを通じて、住民同士が「学びあい、支えあう」地域のきずなづくりを推進する」という趣旨で展開しています。

当講座では「青葉区を見る・知る・味わう」を合言葉に、歴史、環境、芸術など様々なテーマで青葉区を知り、地域活動を楽しむことに主眼を置きました。テーマごとに、区内で活躍の方が講師となって青葉区の魅力を引き出してくださったおかげで、どの回も大変好評でした。受講生一人ひとりが地域を楽しむことを覚え、講座の終盤を迎える頃にはそれぞれの次なるステップを考え始めたことは、主催者として大変喜ばしく思います。

最後になりましたが、運営にご協力いただき、講座を成功に導いてくださいました方々に深く感謝申し上げます。

あおば学校支援ネットワーク
代表 竹本 靖代
青葉まちのマイスター講座
実行委員長 近藤 昭雄

第1回 「私の青葉区の地図を作ろう」

平成19年9月29日 アートフォーラムあざみ野

オリエンテーション

開講挨拶に続き、講座趣旨やこれから始まる各回のテーマ別の学習概要について各担当から説明を行いました。続いて「自宅の位置を確認しよう」で、地図に示した自宅位置をもとに自己紹介。お互いの顔を合わせ講座のスタートを切りました。

第1部 「13歳の青葉区」 講師 青葉区役所地域振興課係長 飯野成穂氏

区制13年となる青葉区の特徴や発展の歴史をお話しいただきました。

地区センター等青葉区の施設に関する資料を配布しましたが、今はインターネットでもっと詳しく、そして多くの情報を検索することができます。情報は取捨選択しどう活用するかが大事です。

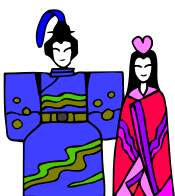
青葉区の人口は30万人で港北区に次いで市内で2番目に多く、近い将来は港北区を抜くでしょう。面積は戸塚区に次いで2番目の広さです。

人口は昔から多かったのではなく、昭和14年に横浜市に編入されるまでは谷戸に集落が散在しているだけで、恩田川（旧田奈村）、谷本川（旧中里村）、早淵川（旧山内村）の川沿いにあった集落が村になりました。田奈は恩田・奈良・長津田の字から命名されています。今でもそれぞれの地域性があり、消防団の地区もこの3つに分けられています。

昭和30年頃の人口は、旧山内村4,200人、旧中里村は緑区の一部を含んで6,500人、旧田奈村も長津田を含んで10,500人で、緑区を除くと2万人弱。ほとんどが農家で山内地区では乳牛の飼育も行われ、田園都市線が開通するまでは横浜の中でも僻地でした。

昭和41年に溝の口から長津田まで田園都市線が開通し区画整理されてから急速に宅地化が進みました。新しく区画整理をした土地は新しい町名がつけられています。自然が豊かであったことから植物の名前がついている町名が多いのが特徴です。

青葉区は急速に都市化が進んだ地域ですが、一方で寺家ふるさと村など自然も多く残っていて、自然との調和をどうやって保ちながら町を発展させていくかがこれからの課題です。平成21年には区制15周年と開港150周年を迎え、谷本運動公園の一部がオープンする予定です。



町名の由来についても教えていただきました。

「たちばな台」は隣地の桜台との関係から、右近の「橘」左近の「桜」にちなんで命名された等、おもしろいエピソードが多くありました。その他の地名についても、6ページの第2回報告内に記載していますのでご覧ください。



第2回講座「青葉を歩こう」の各コースに沿って、名所・史跡や地名の由来等を教えていただいたお話の一部を紹介します。続編を望む声が多く好評でした。

地名という観点で青葉区の歴史を探っていこうということを趣旨に、地域ミニコミ誌の「ひろたりあん通信」で地名推理ファイルを5年以上連載しています。地名は危険な場所や重要な場所など土地の形状等を表わすところから発生しました。たとえば「荏田」は水のある場所という意味です。

石川村が水没？！

荏田村と石川村は早淵川の水の分配をめぐる仲が悪く、荏田村の住民が堤防を築いて石川村を水没させたという言い伝えがあって、石川村には保木・船頭・平川などそれらを思わせる地名が複数存在しています。「保木」の由来は水没した石川村に舟を出したことから帆木が保木になった・・・というのは本当でしょうか？！



青葉区の難所？！

現在の美しが丘西が古くは保木と呼ばれた地域です。実は「ホギ・ホキ」という地名は日本の各地に存在していて、崖や山腹の険しい所や山間の深い谷の意味を持っています。岐阜県の長良川付近には「保木口」「保木脇」「歩岐平（ホキピラ）」、飛騨地方には「保木林」「保木脇」という地名があり、いずれも山あいの川に沿った土地です。四国の景勝地である「大歩危小歩危（オオボケコボケ）」は、歩危（ホキ）が（ボケ）に訛ったもので、やはり吉野川沿いの険しい地形です。転じてみると石川村の保木には早淵川の源流があります。実際に保木薬師の前あたりは昔がけだらしく、ここから高い山があってこのあたりで一番高低差がありました。

平川はほんとうに“たいら”か？！

平川の平はたいらという意味ではないと思われます。古事記に出てくる黄泉比良坂（ヨモツヒラサカ）のヒラは坂を、アイヌ語でもピラは崖または急坂のことを意味しています。沖縄の古典で坂をヒラと読んだり、今でも方言で坂をヒラと言うところがあるそうです。坂の意味を持つ「ヒラ・ピラ」という言葉に、正反対の意味の「平」という漢字を当てたために意味が分からなくなった例だと思われます。昭和30年代に撮影した美しが丘付近の航空写真を見るとこのあたりには坂が多いです。地名は漢字を当ててわからなくなっていることがあるので、漢字の意味ではなく読みを見ていくことが大事です。

第2回「青葉を歩こう」

平成19年10月6日 区内(6コース散策) および 区民活動支援センター

10:00	スタート地点に集合 オリエンテーション	施設の職員から説明を受ける
10:05	グループワーク1 各コースに沿って見学	レクチャー:「まっぴい・青葉の街」メンバー
13:00	グループワーク2 ① 地図づくり ② グループ発表(7分/G) ③ まとめ	ファシリテーター:「まっぴい・青葉の街」秦代表 コメンテーター:「まっぴい・青葉の街」秦代表

【事前作業】

青葉区内を6区域に分け、史跡や公園、また、日常の生活に有効に利用できる施設、行政機関などを中心に見学コースを作成し、第1回講座の後半で6コースのグループづくりをしました。

【グループワーク1】

好天に恵まれた10月6日10時、各コースのスタート地点に集まり、「まっぴい・青葉の街」のメンバーからレクチャーを受けながら、史跡、公園、文化・福祉等区民利用施設を見学、2時間余を歩き、青葉区を見て、知って、味わい、楽しみました。(各コースは行程表を参照)



自然の豊かさに感動し、青葉区内にこんな史跡もあると驚き、青葉区を誇りに思いました。各コースを歩き終えて、田奈の青葉区区民交流センターに集まり、各グループで昼食を摂りました。

【グループワーク2】

午後は、「まっぴい・青葉の街」代表の秦さんの指導のもと地図づくりをしました。コース別の白地図に、見学した神社、寺、地域ケアプラザ、地区センターなどを色分けしたり工夫を凝らしながら書き入れて地図を作りました。眺めの良かったところ、美味しそうなレストラン、きれいな花が見られたところなどお勧めポイントのマーキングもありました。

地図が完成したら、発表です。各グループ7分の持ち時間で、自分たちの見学してきたところの魅力を伝えようと頑張っており、地図を指し示しながらプレゼンテーションをしました。こんな



ところもある、あそこへも行ってみいと全コースの発表に熱心に耳を傾け、聴き入り、情報の共有ができました。

6グループの発表後、コメンテーターの「まっぴい・青葉の街」代表の秦さんから「まっぴいは青葉区の地図づくりをしてきましたが、今回のような青葉区に転入の方のために生活の視点で区内をとらえての見学コースづくり、地図づくりは初めてです。こういう視点があることを学び、興味深く思いました。」とまとめのお話をいただきました。



グループで楽しく会話をしながら歩き、各自それぞれに多くの気づきや学びがあり、ご参加の皆さんとの交流が良い思い出として残った一日でした。

最後に出来た6枚の地図をつなげて、青葉区全体をイメージしました。

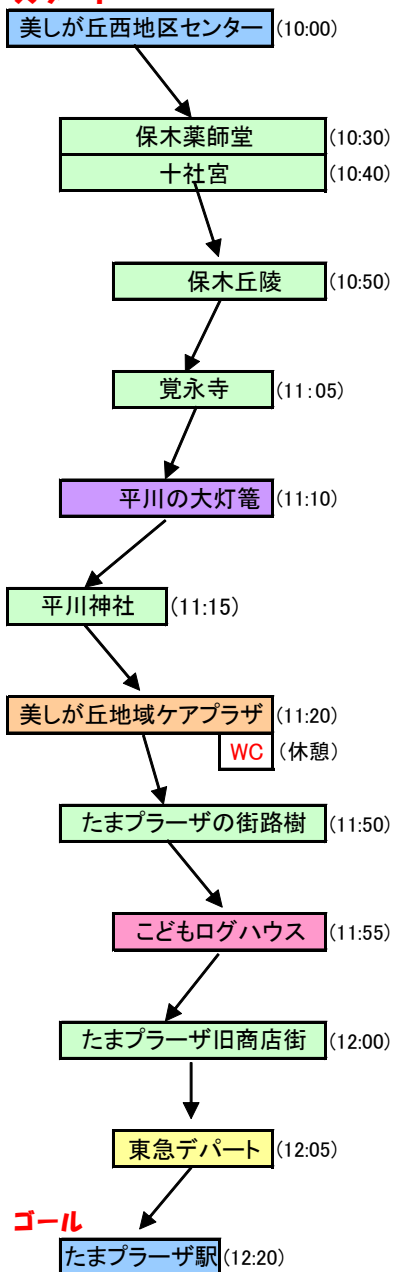


- 青葉区町名の由来** ()内は旧地名 —青葉区地域振興課 飯野係長の資料から—
- 「美しが丘」(元石川) 美しかった区画整理前の丘陵地にちなんだもの。開発後も美しい街として発展を願った関係者の要望により採用。
 - 「松風台」 町名を検討した会議後の宴席で、たまたま歌われた当時の流行歌「古城」の一説から取られたというエピソードがある。
 - 「青葉台」 開発前のこの付近が、松、檜、杉などの常緑樹に覆われていた大地であった。
 - 「藤が丘」「梅が丘」(下谷本) 開発前に多く見られた「藤」と「梅」にちなんでつけられた。
 - 「しらとり台」(恩田) 神鳥(しとど)前川神社の名前に由来。「しとど」が呼びにくいので、神鳥とされている白鳥が代わって登場した。(参加者から別説の発表あり)
 - 「すすき野」「もみの木台」(嶮山) 土地区画整理組合全員のアンケートと横浜、川崎両市の協議により決定。
 - 「新石川」 旧町名の「元石川」を残したいという地元の意見を反映。
 - 「柿の木台」「みたけ台」(上谷本) この地域に柿や竹が多かったことからつけられた。

青葉を歩こう G1コース 行程表

(歴史と自然の美しが丘散策コース)

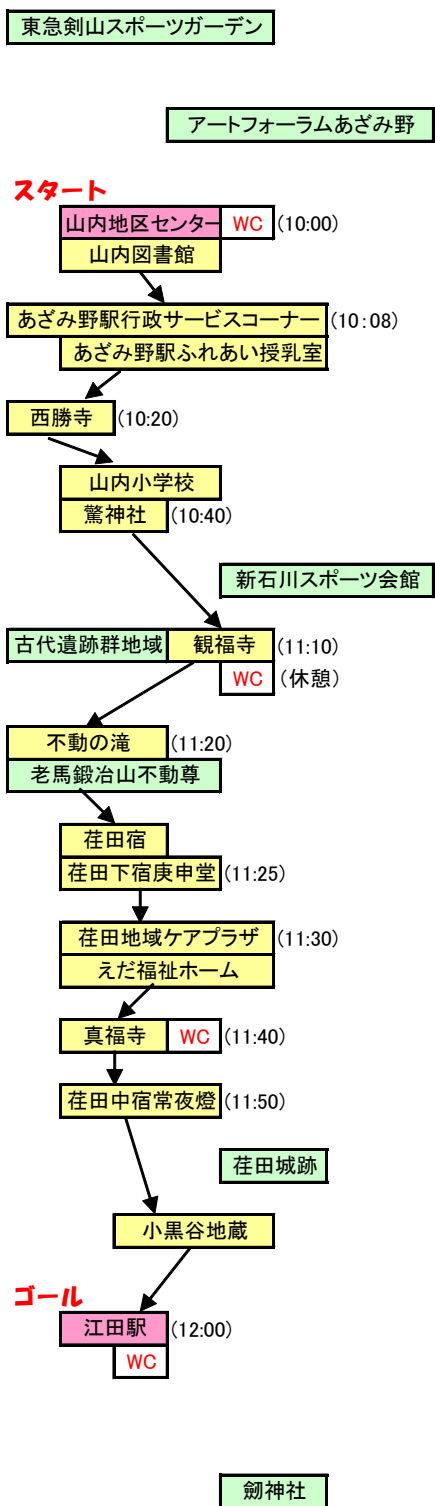
スタート



- 美しが丘西地区センター
体育室、音楽室、会議室、娯楽室、料理室、図書コーナー、プレイルームなどを備え、幼児から高齢者までだれでも利用できる施設。
- 保木薬師堂
1783年建立。堂内で発見された如来の坐像は鎌倉前期の数少ない仏像で、県指定の重要文化財。県博物館で保管されていて、毎年9月12日に里帰りする。
- 十社宮
創建は不詳。祭神は国常立尊(クニトコタケノミコト)ほか 国土生成の神々十柱。「十社権現社」とも呼ばれる。祭礼には、お囃子や獅子舞も出る。
- 保木丘陵
早淵川の源流。シーズンには桜と桃が色を競い、まさに桃源郷の観を呈す。
- 覚永寺(浄土真宗本願寺派)
1594年武州赤坂一ツ木村(現:港区赤坂)に建立。1967年当地に移転。本尊は阿弥陀如来。他に本願寺8世蓮如上人と聖徳太子の画像を祀る。桜も見もの。「木の実降る この裏山のあるかぎり」の句碑が寺のたたずまいを表している。
- 平川の大灯籠
薩摩灯笼とも呼ばれる。幕末、江戸の薩摩屋敷に奉公した娘が殿様から記念にもらい受けたとの話がある。
- 平川神社
創立年代未詳。祭神は大山咋神(オオヤマクイノカミ)(山王権現)と猿田彦尊。拝殿の袖の部分には左右一対の鷲が彫られている。桜もよい。
- 美しが丘地域ケアプラザ
地域の交流、保健福祉に関する相談・助言・調整、高齢者の通所介護など、幼児から高齢者にいたる様々な支援活動、保健や福祉の相談窓口を行う。
- たまプラーザの街路樹
生きている化石といわれるユリノキ(ヤッコダコノキ、ゲンバイノキ、ハンテンノキとも呼ばれる落葉樹)が、道の両側にスラリと高く立ち並ぶ。5~6月ごろに花を咲かせ、秋には紅葉する。
- こどもログハウス
美しが丘公園の中に建つ丸太の家。螺旋の滑り台、のぼりネット、地下迷路、ブロック・図書・お絵かきコーナーなど小中学生のための様々の設備がある。
- たまプラーザ旧商店街
多くの客で賑わうたまプラーザの中央商店街。7月にたまプラーザ祭りが行われる。
- 東急デパート
たまプラーザ駅下車、徒歩2分。地下1階、地上5階。衣服、洋品雑貨、食料品、インテリア、レストランのほか、屋上には遊戯施設もある。
- たまプラーザ駅
一日平均利用客数 66,000人(2006年度)。

青葉を歩こう G2コース 行程表

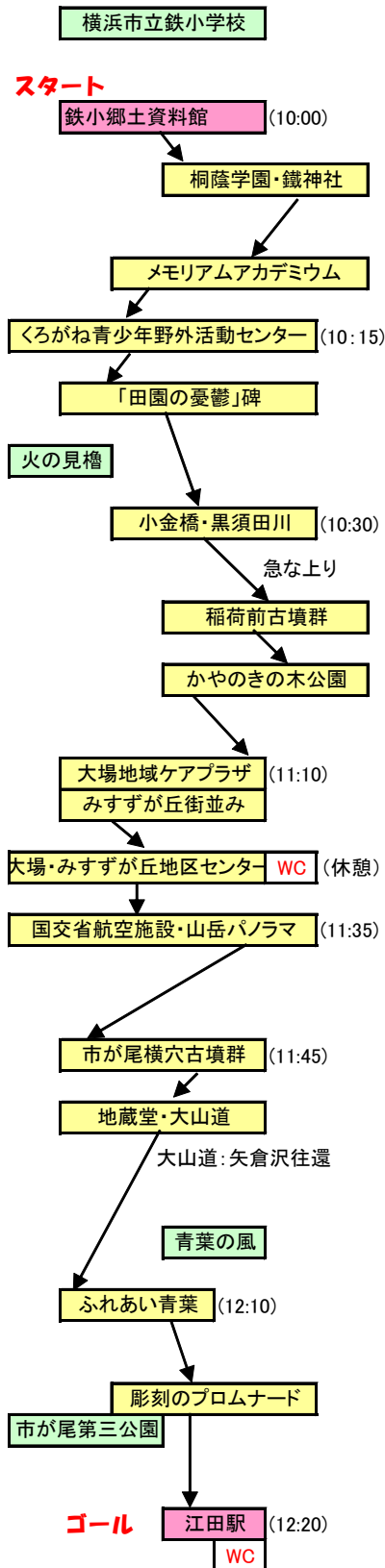
(歴史を感じる散策コース)



- 東急剣山スポーツガーデン
ゴルフ、テニス、フットサルなどのスポーツ施設。レストランも併設。
- アートフォーラムあざみ野
男女共同参画センター横浜北と横浜市民ギャラリーあざみ野の複合施設。
- 山内地区センター
サークル活動用会議室、体育館、音楽室、図書館など誰でも利用できる
- 横浜市立山内図書館
蔵書19万冊。郷土資料コーナーあり。
- 東急田園都市線あざみ野駅
1日の平均利用客数 125千人(2006年度)。市営地下鉄あざみ野駅に接続。
- あざみ野駅行政サービスコーナー
土曜・休日でも各種証明書がとれる。(年末・年始は休み)
- あざみ野駅ふれあい授乳室
平成18年5月開設の「赤ちゃん休憩室」。市民との協働事業。
- 西勝寺
浄土真宗本願寺派・永禄2・1558年純能法師により建立。
- 山内小学校
明治6・1873年荏田学舎が観福寺に閉校。「けやき」がシンボル。
- 鷲神社
素盞鳴尊。創建年代不詳。石川牧の総鎮守と伝えらる。牛込の獅子舞。
- 新石川スポーツ会館
テニス、卓球、バドミントン、バレーボール、バドミントン、体操可の市営施設。
- 観福寺
真言宗豊山派。嘉禄元・1225年印誉和尚が開山。如意輪観世音菩薩。
- 古代遺跡群地域
弥生時代の「環濠集落」で早瀬川流域を一望。古墳時代中期に「円墳」存在。
- 不動の滝
祈雨・喘息・風邪に霊験とされる霊泉・不動瀧が流れる。
- 老馬鍛冶山不動尊
不動明王 旧家・大久保家守護尊。
- 荏田宿
江戸日本橋から7里。道幅は3間。下宿・中宿・上宿に分かれる。
下宿旅籠「枡屋」に渡辺華山投宿の記録あり。
- 荏田下宿庚申堂
宿入り口にあり。寛政5・1793年下宿の女性達が建てる。道標。健脚祈願。
- 荏田地域ケアプラザ
福祉・保健の活動交流、相談窓口、ディサービス、居宅介護・介護予防支援。
- えだ福祉ホーム
障害者自立支援のための地域福祉活動施設。
- 養老山真福寺
真言宗。十一面千手観音菩薩(平安期・県重文。4月8日花まつり)
- 荏田中宿秋葉講常夜燈
中宿・小泉家宅内。文政4・1821年の大火後の文久元・1861年防火祈願に建立。
- 荏田城跡
源義経に纏わる江田源三広基の伝説が伝わる。私有地。立ち入り禁。
- 小黒谷(コグロヤト)地蔵
荏田城跡東麓は小黒谷と呼ばれ、土が黒いため地名か。
江田源三の名馬・小黒の伝説あり。江田駅ガード側に地藏堂あり。
- 東急田園都市線江田駅
1日の平均利用客数 36千人(2006年度)
- 劔神社
素盞鳴尊。創建年代不詳。大蛇の伝説あり。

青葉を歩こう G3コース 行程表

(谷本川を望む丘の道～ 弥生から いま住む街へ)
(約6km 標高差60m)

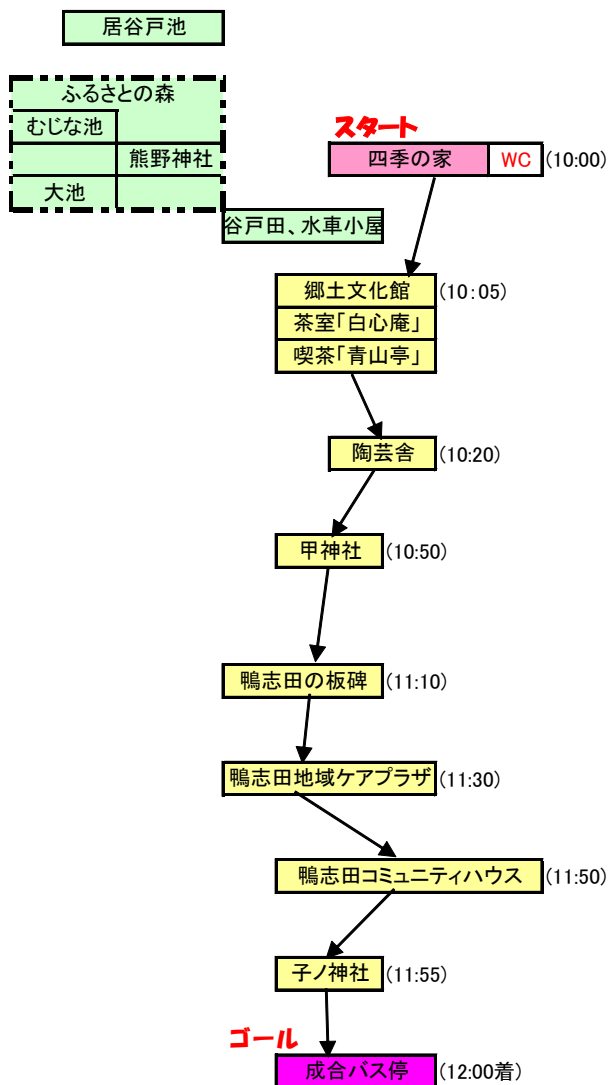


- 横浜市立鉄小学校
横浜で一番歴史のある学校、3世代、4世代にわたって通う学校
- 鉄小学校郷土資料館
地元の民俗資料、農具、囲炉裏、消火ポンプなど鉄小学校の教室を活用して展示。脱穀器具を使った学習も行う。
- 鐵神社
天文年間創建、昭和42年改築、祭神イザナギ、菅原道真。鳥居は昭和49年建立上鐵獅子舞/10月吉日
- メモリアムアカデミウム
桐蔭学園文化施設、横浜地裁陪審法廷、ソフィスホール、カフェボローニア
- くろがね青少年野外活動センター
横浜市に4箇所の1つ、野外炊事棟、キャンプ広場等。旧鉄小跡。
- 「田園の憂鬱」佐藤春夫著「碑」
田園の憂鬱由縁の地。鉄町の金子美代子さんが建てる。フェアリイランド
- 火の見櫓
消防団小屋と半鐘(サイレン付き) 五箇村用水
- 小金橋・黒須田川
テラスのある橋、溪谷の趣き、櫻がみごと、近くに青々稲田。黒須田川にはユニークな橋が多い。
- 稲荷前古墳群
5世紀、前方後方墳など多数、直刀、土器、耳飾り等出土、土地造成中に発見
- かやのき公園
樹齢600年のかやの木。区内鶴見川領域の治水装置
- 大場地域ケアプラザ
福祉・保健の活動交流、相談窓口、ディサービス、在宅介護・介護予防支援。
- みずすが丘街並み
並木道、電線の地中化、禁煙認証店、青葉区は市内で街路樹、犬も一番多い。
- 大場・みずすが丘地区センター
市民の生涯学習の場、地域づくりの拠点
- 国交省航空施設・山岳パノラマ
国交省無線標識、NDB/EDA、小型機もよく通過する。
- 山岳パノラマ
青葉区はどこからでも、富士箱根/丹沢/南アルプス/奥秩父が望める。
- 市が尾横穴古墳群
6～7世紀の横穴式墓地
- 地藏堂
江戸初期、統誉上人開山 本尊:木製地藏菩薩(伝説では即身仏)
お十夜:11月30日に双盤をならし地藏菩薩を開帳して、皆で念仏を唱える。
大正5年佐藤春夫の仮住まい
- 青葉の風
中途障害者地域活動センター、中途障害者が仲間や地域の人と自立した生活を目指す。
- ふれあい青葉
福祉保健活動拠点、高齢者、障害者、子ども、ボランティア活動の支援
運営は、青葉区社会福祉協議会
- 彫刻のプロムナード
平成3年まちなみ景観賞を受賞した彫刻群:本を読むネコなど
市が尾駅前～北部支所(当時)現在は駅前～スポーツセンター

青葉を歩こう G4コース 行程表

(田園風景が色濃く残る寺家ふるさと村コース)

寺家ふるさと村



- 寺家ふるさと村(注記)
横浜市の北西部に位置する。雑木林の丘に挟まれた「谷戸田」と「ふるさとの森」をもつ。市の“ふるさとの森”整備事業により整備されたなし園、体験温室、ゴルフのショートコース、テニスコートなどの施設のほか、レストランも併設。
- 居谷戸池
水田用の溜池であり、洪水をやわらげる遊水池でもある。池に弁天島が浮かぶ。
- 四季の家
寺家ふるさと村の総合案内所で、ホールギャラリー、研修室、農産加工室、駐車場をもつ。
- 谷戸田と水車小屋
林に囲まれた浅くて細長い谷間を利用してつくられた水田で、実物のコットン水車が回っている。
- 郷土文化館・白心庵・青山亭
陶芸品の常設展示や地元伝統工芸品などの特別展示があり、茶会、句会、歌会などに利用。茶道、生花教室も開催。青山亭では抹茶、軽食が楽しめる。
- 陶芸舎
陶芸家の指導の下、志野焼きが体験できる。
- 甲神社
戦国時代の創建と伝えられ、ご神体は劔に似た石棒で、神社の後ろは昔の城址と言い伝えがある。
- 板碑
石造りの供養塔婆の一つで、県下で最も古いもの。鎌倉時代の信仰の様子がうかがえる。
- 鴨志田地域ケアプラザ
福祉・保健の活動交流拠点で、相談窓口、ディサービスなどの支援を行う。
- 鴨志田コミュニティハウス
市民のグループ活動などに利用できる研修室、和室、市民図書室がある。
- 子ノ神社
祭神は大国主命と木花之開耶姫命で、境内に庚申堂、地神塔、弁財天などが安置されている。
- 青葉台駅までバス15分

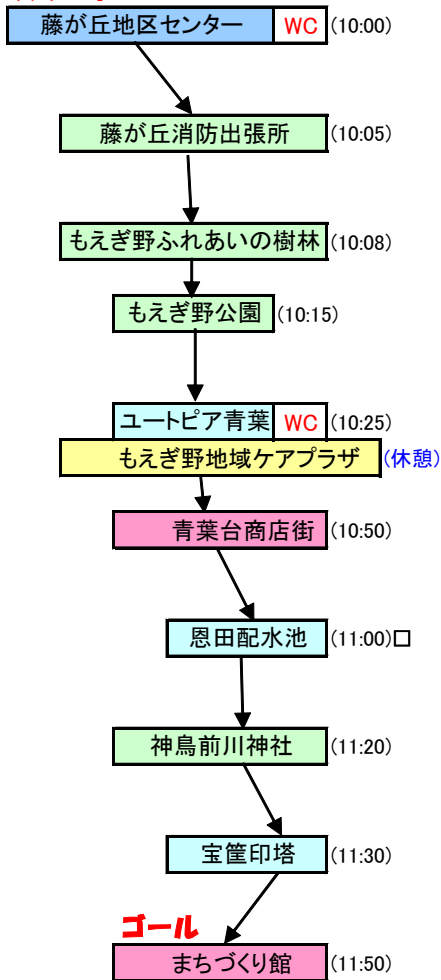
[注記] 寺家ふるさと村の散策には、「森のコース」(ふるさと村周遊コース、健脚向き)と「里のコース」(寺家町巡回コース)が準備されており、各コースとも、所要時間は約1時間である。

[参考資料] 寺家ふるさと村散策マップ 青葉区役所刊

青葉を歩こう G5コース 行程表

(藤が丘～青葉台・田奈散策コース)

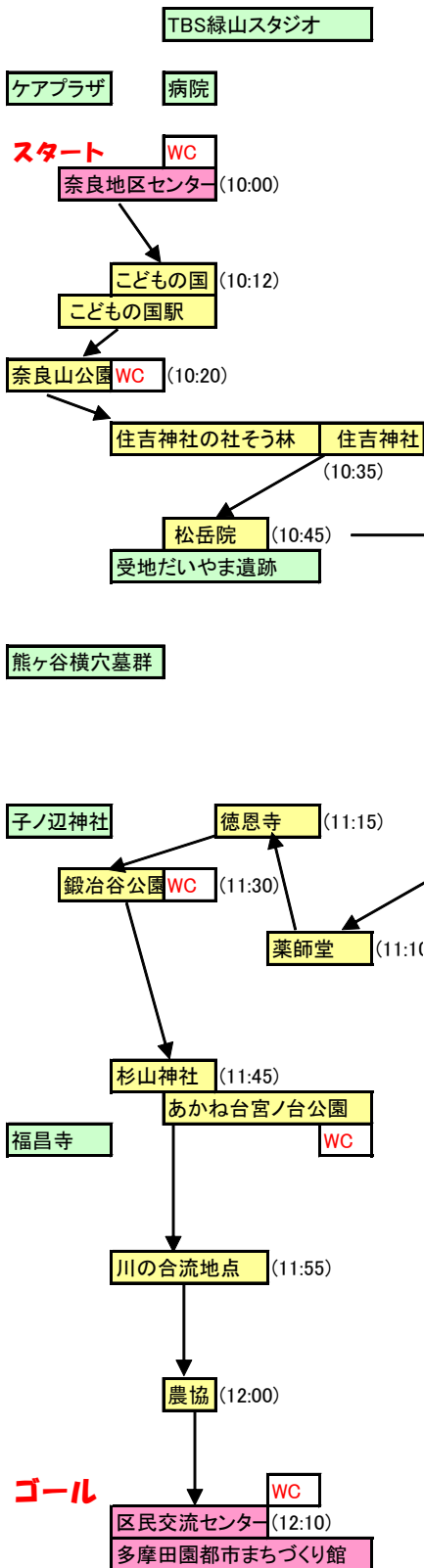
スタート



- 藤が丘地区センター
昭和48年開設で、体育館、会議室、料理室、和室、工芸室、図書コーナー等を備えた、藤が丘駅より徒歩6分の距離にある施設。
- 藤が丘消防出張所
区内5箇所にある出張所の一つ。119番通報で火災や交通事故の際の救助や処理にあたる。
- もえぎ野ふれあいの樹林
山林所有者の協力で小規模な緑地を保全育成しながら区民の憩いの場として利用されている。特に動植物の保全に力を入れている。
- もえぎ野公園
以前は農業用の溜池として使用されていた所を平成2年6月の公園として整備した。今は区民の憩いの場となっている。池の中には市内でも珍しい浮き桟橋がある。
- ユートピア青葉 (老人福祉センター)
もえぎ野地域ケアプラザとの併設で60歳以上の方が利用できる施設。趣味、仲間づくりの場として明るい生活を楽しむ施設でもある。
- 青葉台商店街
青葉台駅を中心に広がる商店街で衣服、洋品雑貨、飲食店、銀行、郵便局などがあり、地上5階、地下1階の専門店ビルが立ち並ぶ東急スクエアがある。
- 恩田配水池
市の水道局の施設で浄水場でつくられた飲料水を各家庭に配水している。災害時には飲料水の確保と給水車による運搬・給水を行う。
- 神鳥前川神社
文治3年(1187)武蔵野国樹形城主 稲毛三郎重成の創建である。樹形城跡は川崎市多摩区の民家園近くにある。
- 宝篋印塔(恩田の豪族糠屋氏供養塔)
インドに発した装飾的仏石塔で、平安末に伝わり、経文を納める塔として鎌倉期以降に供養塔、墓塔として建立された。
- 東急多摩田園都市まちづくり館
多摩田園都市の歴史を残す記念館で、地域の生活文化の歴史を模型や資料で見ることができる。

青葉を歩こう G6コース 行程表

(自然いっぱいの健脚コース)



- 奈良地区センター
サークル活動用会議室、体育館、音楽室、図書館など誰でも利用できる。
- 緑協和病院
奈良地区の総合病院
- 奈良地区ケアプラザ
福祉サービス、保険サービスなどを総合的に受けられる知的ハンディキャップ対象者のサービス施設もある。
- こどもの国
昭和34年4月皇太子殿下のご結婚を記念して旧日本陸軍弾薬庫補給廠跡に造られた。遊園地
- こどもの国線
昭和24年4月に長津田から単線で開通した。
- 奈良山公園
青葉区で一番広い公園
- 住吉神社社そう林
2百万年から1万年前にあたる洪積層で横浜市から天然記念物の指定を受けた。
- 奈良川の学童事故
戦時中、神奈川県立横浜第二中学校の4年生が学童動員奉仕中、乗っていたトラックが川に転落し6名が犠牲になった。
- 住吉神社
祭神は武内宿禰。ご神体は銅鏡
- 受地だいやま遺跡
青葉区で最も古い時代の遺跡(紀元前1万年～紀元後800年)。現存しない。
- 松岳院
曹洞宗大峰山松岳院。本尊は釈迦如来。江戸時代、都筑郡奈良村の領主であった旗本石丸家三代の墓があり、横浜市地域史跡の指定あり。2本のイチヨウは市の「銘木古木指定」を受けている。
- 熊ヶ谷横穴墓群
古墳時代の有力者家族の共同墓地で壁面には線刻画が見つかった。出土品は横浜市歴史博物館で展示されている。現在はレンガで封鎖されていて道路傍に看板がある。
- 薬師寺
横浜市の銘木古木指定の「ムクロジ」の木がある。ムクロジの実は正月の羽子板の羽の玉として使われた。
- 徳恩寺
高野山真言宗摩尼山延壽院。本尊は虚空蔵菩薩。禅寺丸柿の発見者で川崎市王禅寺の中興開山の祖、等海上人の墓がある。横浜市の「銘木古木指定」のカヤの木がある。
- あかね台鍛冶谷公園
貯水池である広い運動場と遊戯具のある公園
- 子ノ辺神社
ご神体は長さ1尺7寸2分(約50cm)直径4寸(約12cm)ほどの石棒
- 杉山神社
寛永年間と戦後、2度の火災に遭ったが、平成元年に現在ほ場所に神殿と境内が整った。
- 福昌寺
曹洞宗、長津田大林寺の末寺で天龍山と号し、本尊は釈迦、坐像で長さ8寸、他11面観音像を安置している。
- 東急長津田車両工場
東急電鉄と横浜高速鉄道(こどもの国線)の車両保守工場
- 奈良川と恩田川の合流点
- JA田奈
設立後58年の歴史を持つ。神奈川県内でも唯一合併をしていない農協である。
- 多摩田園都市まちづくり館
1953年から東急電鉄が開発事業主体となって進めてきた、街づくり「多摩田園都市」の歴史を残す記念館。

第3回 「田園都市青葉の環境と自然を考えよう」

平成19年10月13日 寺家ふるさと村 および 恩廻公園調節池

私たちの生活に欠かすことのできない水道水、使用した後の生活排水、道路等から直接川に流れ込む水などを通じて田園都市として開発された青葉区の環境と自然について考え、青葉区を流れる鶴見川の治水対策として重要な「恩廻公園調節池」を見学しました。

水について

地球は水の惑星といわれますがそのほとんどは海水です。淡水は3.5%、実際に利用できる水は0.8%。日本は、水が豊富というイメージがありますが、世界平均の1/6ぐらいです。私たちが利用している水のほとんどは雨に依存していますが、その雨も梅雨の頃の雨と台風に依存しています。



横浜の水

現在、横浜は道志川系・相模湖系・馬入川系・企業団酒匂川系・企業団相模川系の5系統の水で成り立っています。それぞれ源流等で取り入れられた水は浄水場を経て水道水となって各配水地へ送られ、各家庭へ給水されます。1日の利用量は1,955,700m³といわれています。

青葉区の水

谷本川を境にして青葉台方面には道志の水が入っていますが、あざみ野・たまプラーザ方面は企業団の水です。青葉区内は、川井・小雀・(企)相模原・(企)西長沢の浄水場から給水されています。横浜市は市内24ブロックに分割した配水ブロックシステムで給水しています。



水道が引かれる前、生活用水は井戸の水を使っていました。農業用水も谷戸から流れる湧水や川の水を利用していました。谷本川には水車小屋もありました。明治時代に近代水道が引かれた横浜ですが、青葉区は当時、都筑郡でしたのでその恩恵を受けるのはずっと後になってからになります。

近代水道の歴史

1887年(明治20年)10月7日に横浜の外国人居留地で給水されたのが始まりです。当時外国人居留地では、井戸を掘っても塩水が混じり、水売りの水も腐っていたりして病気もはやり、水の確保は大問題でした。多摩川から木の管で水を引きましたが途中で抜かれたりしてうまくいきませんでした。そこで神奈川県知事がイギリス人技師のH. S. パーマーを顧問に招き、試行錯誤の後、相模川の上流に水源を求めて国家事業として近代水道の工事が始まりました。

道志の水源涵養林

水源涵養林は緑のダムといわれています。横浜市では道志川が流れる山梨県南都留郡道志村の水源涵養林2873haを1916年(大正5年)から保有しています。その面積は村の36%、横浜市区とほぼ同じ広さです。



森林に降った雨は、保水能力の高い森林土壌にたっぷり吸収されゆっくり地中に浸透します。地中に浸透した水はやがて湧水となって再び地中に現れ河川になります。水源涵養林はこの森林の保水能力を積極的に活用したものです。もし山に森林がないと、降った雨はいきなり地表をすべり落ちて海に流れてしまいます。水の浄化だけでなく、降水の河川への流出量の調節と土砂の流出を防ぐことも涵養林の大きな目的です。そのため下刈・枝打・間伐など森林保育作業が大切となります。水源涵養林ではそのためのボランティアを募集しています。

下水道

青葉区内から出た汚水は、市内に11箇所ある水再生センターの都筑水再生センターと港北水再生センターで下水処理されています。青葉区内はすべて分流式です。（汚水は水再生センターで下水処理して川へ・雨水は直接川へ流れる）下水道の普及に伴い、河川の水質はきれいになりました。

下水道の役割

生活環境の整備（水洗トイレ）・浸水対策・自然環境の保護のために必要です。市街地化するとともに汚水量が増え、自然のサイクルに戻すために下水処理をして川～海に戻しています。現在、鶴見川の水質は以前では考えられないほどにきれいになりました。実際に、鶴見川・黒須田川での水質検査等の様子とともにいろいろな生き物が戻ってきている話もできました。

下水処理

横浜市では他の多くの都市と同様に「活性汚泥法」で処理しています。家庭から流された汚水は自然流下で水再生センターに届き、沈砂池・沈殿池でゴミや砂を取り除き、反応タンクで活性汚泥を加えて空気を吹き込んでかき回します。下水中の有機物は微生物の栄養として吸収されて沈みやすい泥になります。きれいになった下水は塩素滅菌して川に流します。

下水道の歴史

明治4年、英国人ブラントンにより瓦製陶管による下水管が外国人居留地にできましたが、外国人の激増により、またコレラが大流行したため、三田善太郎氏の設計によって明治14年から20年にわたって煉瓦管による近代下水道への改修工事が行われました。

青葉区を流れる鶴見川と総合治水

青葉区内を流れる川は、谷本川（鶴見川）とその支流である恩田川・早淵川が中心です。鶴見川は町田市北部に源流を発し、横浜市鶴見区生麦で東京湾に注ぐ一級河川です。本流全長は42.5km、流域は横浜・川崎・町田・一部稲城市に広がり、京浜工業地帯の中心部や港北ニュータウン、新横浜、多摩田園都市郡を擁しています。流域面積235㎡の85%が市街地化され、188万人が生活しています。

私たちは生活用水を遠い水源の水を利用して排水は目の前の川に流しています。町の中の川はどぶ川化して、治水のためにとその側面や底をコンクリートで固められたところが多くありました。蛇行が強く流域市街地化の著しい鶴見川の水害は深刻で、その治水方法は、川だけでなく流域全体で工夫をすすめる総合治水が進められてきました。現流域の広大な森を保水地域として保全する努力や、新横浜・小机地区の大規模遊水池、恩廻し公園調節池等の整備、流域内3300箇所ほどにある調節池の配置も総合治水対策の一環です。

鶴見川流域水マスタープラン＝＜水マス＞

＜水マス＞は行政区ではなく流域の枠組みで都市再生をすすめようという統合的な流域計画で、①洪水時水マネジメント②平常時水マネジメント③自然環境マネジメント④震災・火災時マネジメント⑤水辺ふれあいマネジメントという5つの基本課題を注目しています。鶴見川の流域活動を進めている市民団体の交流・連携組織であるTRネットを中心に推進されています。

青葉区内の活動

青葉区内では谷本川を中心に「あおぼく・川を楽しむ会」が活動しています。また、連携TRネット参加団体が流域規模の連携で毎年7月に実施する市ヶ尾の「いかだで遊ぼう谷本川」は今年度19年目を迎え、青葉区の中心的なイベントとなっています。



黒須田川協議会

かつて清流といわれた黒須田川も昭和40年代の市街地化の中で三面張りとなり、どぶ川化していました。近隣自治会を中心に協議会が立ち上げられ、活動も始まっています。

寺家ふるさと村散策

私たちは現在の便利な生活を手に入れる中で、大切なものを失ってきました。地域の中で物質が循環して地域の生態系を損なうことのない時代に戻ることはできませんが、青葉区にはそうした時代を感じることでできる場所が残されています。自然の循環の中に、違和感なく人が含まれていた時代を感じる「寺家ふるさと村」を散策しました。



恩廻し公園調節池

恩廻公園調節池ではその経緯や越流堤・地下トンネルの仕組みやその意義について、川崎治水事務所の方から説明を受け、地下トンネルの見学をしました。



恩廻公園調節池は、鶴見川の洪水を一時的に溜めるために作られています。雨が降り、包み側の水位が上がると水は越流堤（周りより低い堤防）より広場に流れ込み、管理棟の地下にあるトンネルへと溜まる仕組みです。トンネルは旧河川敷の地下（地上は公園）を利用しています。貯留容量は約11万 m^3 、トンネルの長さは600mです。この施設の整備により、1時間に60ミリの雨が降っても氾濫を防ぐことができるようになりました。まだトンネルは使用に至ったことはありませんが、谷本川流域に生活する者にとって安心の材料に感じた方が多く、また広く広報したいとのご意見もいただきました。



第4回 「自分を守る力を身につけよう」

平成19年10月27・28日 徳恩寺

青葉まちのマイスター講座の第4回は、防災をテーマに恩田の徳恩寺にて開催しました。台風の影響により、一部予定していたプログラムが実施出来ませんでした。地域で開催する防災講座としては、防災の基礎的知識から技術まで学ぶことが出来たと思います。また、防災という視点から、本講座の主旨の一つでもある、「青葉区を知る」重要性が理解出来たこと、そして住民が連携していく大切さを認識することが出来ました。

最後に、今回全面的にご協力頂いた徳恩寺さまに心より感謝申し上げます。

10月27日(土)

午後2時

○ オリエンテーション

○ プログラム1 横浜市・青葉区の防災

講師 横浜市青葉区役所総務部総務課 さかた さとし 坂田 智氏

横浜市と青葉区の防災について、資料をもとにご講演頂きました。横浜市の危機管理対策を「いざというときに備えて」を参考に、現状そして青葉区での取り組みなども交えてお話し頂きました。地域住民としては、もっと避難場所になる地域防災拠点の備蓄庫の利用や管理について知ると同時に、地域での防災活動にもそうした資源をより活かしていく必要があると感じました。



午後3時15分

○ プログラム2 救急法訓練 心配蘇生法・AEDの使用

講師 横浜市青葉消防署鴨志田消防出張所長 いじま あきら 飯嶌 昭氏

心肺蘇生法とAEDの使用方法の体験学習をしました。思った以上に力が必要であったり、いざやってみると順序よく進めることが難しいことがわかりました。今回初めて経験した人は、一度は体験する重要性を、そして経験者の人は、繰り返し実習をする必要性を感じた講習でした。特にAEDの使用は初めての人が多く、心肺蘇生法とどのように併用するのか一人一人がじっくりと実習をすることが出来た貴重な体験となりました。



○ その他知っておきたい災害時の知識

地域防災拠点の備蓄にある資機材について簡単に紹介しました。また、災害時に役立つロープワークを全員で実際に覚えるまで練習しました。

午後5時30分

○ **プログラム3 炊出し訓練**

荒天により、予定していた外での炊出し訓練は中止となり、厨房で調理しました。アルファ米と、とん汁を作りました。アルファ米の炊込みご飯は、初めての経験者が多く、作る手順一つ一つ確認しながらの作業になりました。また、とん汁の調理は、出来る限り食材を無駄にしないよう、ゴミを出さないように、また余計なエネルギーを使わないよう、災害時を意識しながら作りましたが、おいしいとん汁が出来ました。

午後7時30分

○ **プログラム4 懇談会 「災害時における地域住民（ボランティア）としての活動」**

かのおゆうかん
ゲストスピーカー 徳恩寺住職 鹿野 融 完 氏

災害ボランティアとして、数多くの被災地で活動してこられたご住職に災害現場の様子や、ボランティアとして出来ることなどについてお話をして頂きました。また、地域の中のお寺の存在や、人と人のつながりの重要性などについて、私達が普段気づいていない様々な可能性を示唆して頂く内容のお話でした。

10月28日（日）

午前6時 起床—掃除—朝食準備

午前7時 朝食

午前8時

○ **プログラム5 DIG (Disaster Imagination Game)**

おおまち ひとし
講師 地域防災研究所 大間知 倫 氏



全国的に活動されている防災の専門家である大間知倫さんをお呼びし、災害図上訓練を行いました。まずは、青葉区をよく知るという主旨で、自然条件や、物的条件について参加者全員で地図落としをししながら確認していきました。その後、講師からの様々な事例紹介を聞きながら、全員で災害時のどのようなことが発生する可能性があるかなど議論しました。地域の防災訓練にもぜひこの図上訓練を導入する必要があると感じるほど、まずはまちを知ることの重要性を認識する内容となりました。

午前11時

○ **プログラム6 地域と防災**

かのおゆうしょう
講師 徳恩寺名誉住職 鹿野 融 照 氏

恩田の歴史と、そこに暮らしてきた人々の生活と防災についてお話を頂きました。自然と共生することが防災に繋がっていたこと、またその中で人と人の繋がりが培われていたことなど、現代社会に生きる私達にとって改めて深く考えさせられる内容でした。昔と同じような形ではないが、まちを知り、多くの人と連携していくという点では、このような講座も防災につながる意義を感じさせるお話でした。



第5回 「青葉区の地産物を味わおう」

平成19年11月10日

場所 荇子田小家庭科室 10時～13時

講師 飯田善好氏 中山一江氏（NHK出版「60歳のラブレター」作者の会会長）

- ① この日に担当の近藤から挨拶のあと飯田氏、中山氏の紹介が行われました。飯田氏のオールドベントツが3丁目の夕日に登場したことや中山氏の著書「ハッピー介護の秘密」の紹介などが話されました。飯田氏から提供された野菜は白菜、チンゲン菜、ねぎ、大根、レタス、キャベツなど朝どりの新鮮な野菜でした。



- ② 料理分担は、けんちん汁、白菜鍋、小松菜(チンゲン菜)のおひたし(削りたて鰹節かけ、ごまかけ)、采の味噌あえ、葱ぬた、キャベツの千切りの塩もみ(鰹節かけ)、大根の皮の塩もみ、レタスと大根のサラダ、大根葉の采飯、ご飯(無洗米、胚芽米)、鰹節削り係に分かれて行われました。



- ③ 飯田氏から青葉区の農業の現状についての話
無農薬野菜の現状や、非專業農業化の現状についてお話がありました。柿の木がないのに柿木坂(東京)と呼ばれる由縁は禅寺丸柿を運んだことに由縁があった話、「せせらぎの道」づくり、幅広い氏の話を知ることができました。飯田さんは完全無農薬の野菜を作り続けており近所の人に無料でわけてあげているとのことでした。
- ④ 調理が開始されました。料理が不慣れな男性のために女性がグループに必ず1名以上加わり、飯田さんの目付?のもとに行われ、てんやわんやの末めでたく完成し、佐々木副校長から挨拶があったあとみんなで「いただきます」をして自分たちで作った料理を堪能しました。
- ⑤ 田中さんの発案で和気あいあいのもと受講生一人一人から感想を言うことになり、偶然、柿の木坂生まれの方がいて話がはずんだりしました。最後に近藤からアンケートのお願いをして終了しました。
- ⑥ 後片付けもすんなりいき、最後に大量の生ごみを持ち帰って終わりました。

第6回 「青葉区を紹介しよう」～まとめと実践～

平成19年12月1日 アートフォーラムあざみ野

これまでの各回で、“見て、知って、味わって”きたことを振り返り、地域を再確認することと、この学びと地域活性化の結びつきについて話し合いました。

第1回から5回までの講座のふりかえり

内容については各回報告を、意見・感想は下欄を参照願います。

文部科学省 「学びあい、支えあい地域活性化事業」を考える

あおば学校支援ネットワークの活動紹介と当事業に取り組んだ背景や意義についてあらためて説明しました。これらは講座開始期に説明した内容の繰り返しになりましたが、この点が十分につかめていないという受講生の声にこたえたものです。パワーポイントを使って実際に地域活性化がもたらすものや地域教育力の活用現状を知ること、受講生の理解も進み、各々の展望を描くことができました。



受講生の主な意見・感想

講座の内容や関連した自身の活動について

- ・ 各回講座の内容は面白かった。
- ・ 講座ごとのテーマがバラバラで良かった。
- ・ 青葉区の歴史の話が良かった。
- ・ 第2回講座の全6コースとも良かった。全コースを歩きたかった。
- ・ 環境をテーマにした回の講座が良かった。
- ・ 第5回講座で、住職のお話「地域と防災」が良かった。
- ・ 秋の講座開設は避けて欲しい。開催曜日は土曜日より平日がよい。
- ・ 高齢者のサービスの場で、学んだことの話ができた。
- ・ 行動が広がった。川崎の資料館にも行ってきた。
- ・ 講座で知りえた情報をもとに、神社の祭礼など地域を回ってみた。

質問や情報提供等

- ・ 地域の現状を数字で知りたい。(水道料金、住民税など、他区、他市と比較して)
- ・ 学校や子どもの様子、いじめの対策など
- ・ 英語ボランティアの事例と学校の受け入れ体制
- ・ 学校に関わる場合のASNの対応

学校支援活動に直結はしていない講座でしたが、それらの活動にも関心をお持ちの方が多くことが分かり、今後の学校支援活動に対するご理解ご支援が期待されます。

また、当講座についても、第7回そして来年度の「学びあい、支えあい」地域活性化推進事業へとつながる材料としてのご意見を多くいただきました。

第7回「青葉の芸術活動を体験しよう」

平成20年2月27日 寺家・陶芸舎

芸術分野でも行いたいというアンコールに応じて第7回まちのマイスター講座が2月27日（水）に19名の参加者で大変楽しく行われました。

寺家にある陶芸舎で野中春利先生の指導のもとに手回しろくろの技法を使い湯呑茶碗を作りました。はじめての人にもちゃんとできる方法で一人ひとりに個別の手ほどきを行いながらつくったので一人の失敗もなく全員見事に仕上がりました。

焼き上がるまで2か月ぐらいかかるので5月の連休明けに散歩がてら作品を取りに行くことになっています。

今回特筆すべきことは若い人の参加があったことやお年寄りの御夫婦の参加まで幅広く参加者があったことです。まだ20代そこそこの参加者があったのはASNの活動では初めてのことでないかと思います。

今回は版画家の沢岡やす子さんのアトリエ見学はできませんでしたが4月4、5、6日に寺家アートフェスティバルが行われますがその中で彼女のリトグラフ（石版画、平面版画）のワークショップが行われるということです。皆さんの参加をお待ちします。



青葉まちのマイスター講座(入門編) 実行委員会 名簿(五十音順)

実行委員長 近藤 昭雄

実行委員

- 第1回 大西 房子 ・ 木元 都恵子 ・ 竹本 靖代 ・ 水谷 俊美
- 第2回 岩波 末雄 ・ 藤田 恵子 ・ 宮原 泉 ・ 村上 昌幸 ・ 山本 尚之 ・ 吉田 弘一
- 第3回 加茂 千津子 ・ 田中 佑子 ・ 宮原 泉 ・ 森 健
- 第4回 岩波 末雄 ・ 倉岡 正高 ・ 近藤 昭雄
- 第5回 近藤 昭雄 ・ 田中 佑子 ・ 森 健
- 第6回 近藤 昭雄 ・ 竹本 靖代
- 第7回 倉岡 正高 ・ 近藤 昭雄

協力団体

まっぴい・青葉の街

青葉区恩田町・徳恩寺

青葉まちのマイスター 報告書

発行日 平成20年3月15日
編集・発行 あおば学校支援ネットワーク
青葉まちのマイスター実行委員会
TEL (070)6974-0184

文部科学省・横浜市教育委員会受託
「学びあい、支えあい」地域活性化推進事業

禁複製